

医療分析のデータについて

平成 19 年度に分析した医療分析が、現在の検討資料として参考にできるか否かについて

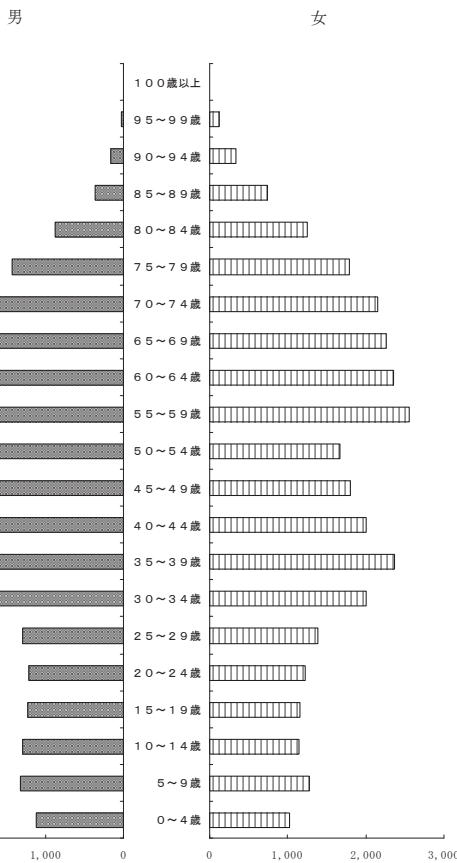
国民健康保険のシステムが過年度より変わり、纏まったデータ取出しが極めて困難となっている。平成 20 年度より後期高齢者が本市の被保険者から外れたため、さらに全体像の把握ができなくなっている。それにより、10 年前のデータを使わざるを得ない状況である。また、逗子市内、周辺の医療機関の状況が大きく変わっていないため、10 年前と現在では、似たような傾向になっていると考えられる。

平成 18 年度	
世帯数	23,472
人数	58,406

平成 28 年度	
世帯数	24,318
人数	56,462

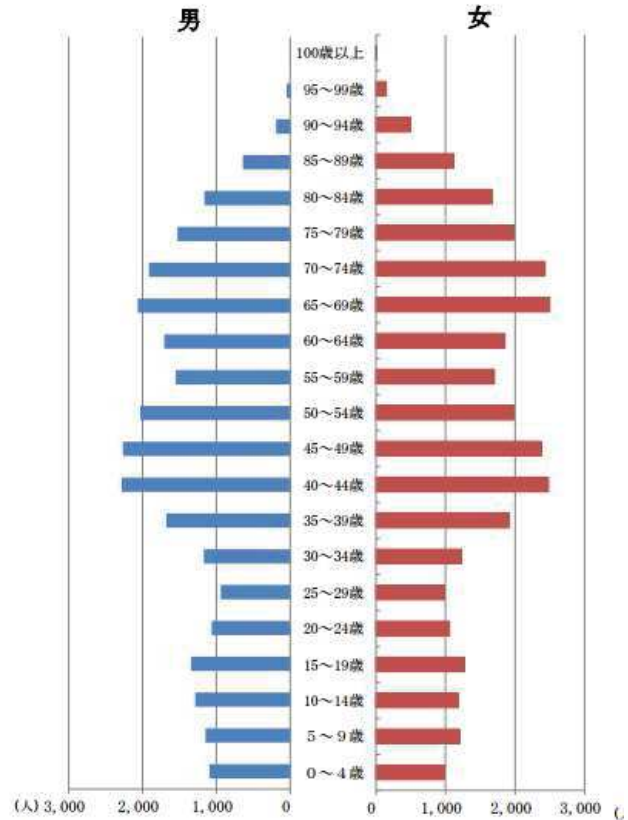
2-2 人口の年齢別構成

平成19年1月1日現在



資料：神奈川県年齢別人口統計調査

2-2 人口の年齢別構成 (平成27年1月1日現在)



資料：年齢別人口統計調査

9-1 医療施設数

(各年度末現在)

年度別	病院	診療所	歯科
平成 15 年度	2	61	38
16 年度	2	64	39
17 年度	2	63	39

資料：鎌倉保健福祉事務所

8-1 医療施設数

(各年度末現在)

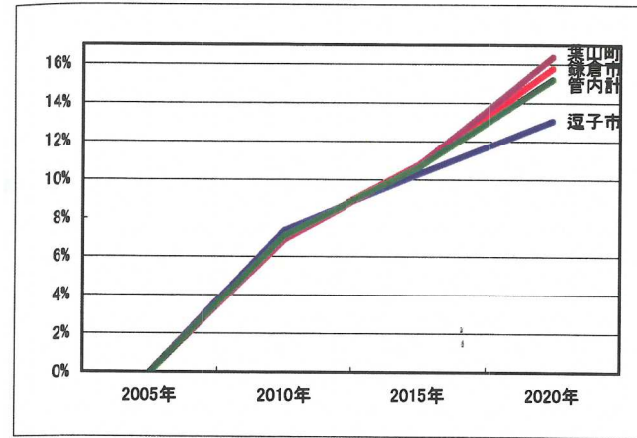
年度別	病院	診療所	歯科
平成23年度	2	63	44
24年度	2	66	45
25年度	2	71	45
26年度	2	66	46

資料：鎌倉保健福祉事務所

今後の予測患者数（鎌倉市・逗子市・葉山町）

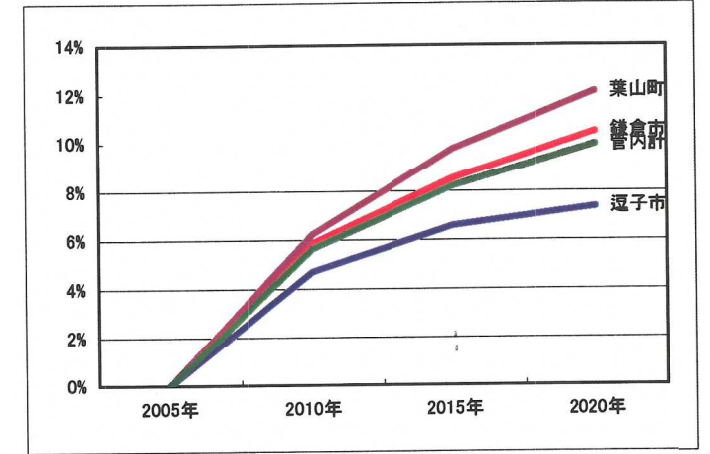
予測患者数推移(入院)

総数	2005年 (平成17年)	2010年 (平成22年)	2015年 (平成27年)	2020年 (平成32年)	2005-2020 年増加率
鎌倉市	1,730	1,852	1,916	2,003	15.8%
逗子市	620	666	684	701	13.1%
葉山町	319	341	353	371	16.4%
管内計	2,668	2,858	2,953	3,075	15.2%



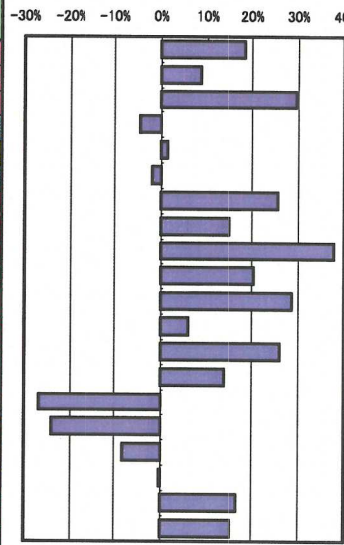
予測患者数推移(外来)

総数	2005年 (平成17年)	2010年 (平成22年)	2015年 (平成27年)	2020年 (平成32年)	05-20年 増加率
鎌倉市	7,228	7,652	7,845	7,985	10.5%
逗子市	2,570	2,691	2,740	2,760	7.4%
葉山町	1,301	1,382	1,428	1,459	12.1%
管内計	11,100	11,725	12,012	12,203	9.9%



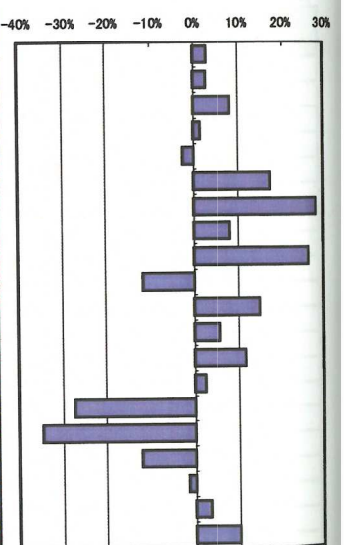
疾病別・管内

疾病19分類(ICD-10)	2005年 (平成17年)	2010年 (平成22年)	2015年 (平成27年)	2020年 (平成32年)	2005-2020 年増加率
1 感染症及び寄生虫症	61	66	69	72	18.5%
2 新生物	336	352	357	365	8.6%
3 血液造血器、免疫障害	12	14	15	16	29.5%
4 内分泌、栄養代謝疾患	95	95	87	90	-4.5%
5 精神及び行動の障害	617	618	614	626	1.5%
6 神経系の疾患	115	116	110	112	-1.8%
7 眼及び付属器の疾患	25	29	31	32	25.5%
8 耳及び乳様突起の疾患	7	8	8	8	15.0%
9 循環器系の疾患	542	630	696	747	37.6%
10 呼吸器系の疾患	152	168	175	183	20.4%
11 消化器系の疾患	173	196	213	222	28.5%
12 皮膚・皮下組織の疾患	17	18	18	19	6.1%
13 筋骨格系結合組織疾患	130	146	156	164	26.0%
14 尿路性器系の疾患	77	82	85	88	13.8%
15 妊娠、分娩・産じょく	32	29	25	23	-26.8%
16 周産期に発生した病態	10	10	8	7	-24.1%
17 先天奇形、変形	11	11	11	10	-8.1%
18 症状、徴候、異常所見	48	49	46	48	-0.3%
19 損傷・中毒、外因影響	208	223	229	243	16.6%
20 合計	2,668	2,858	2,953	3,075	15.2%

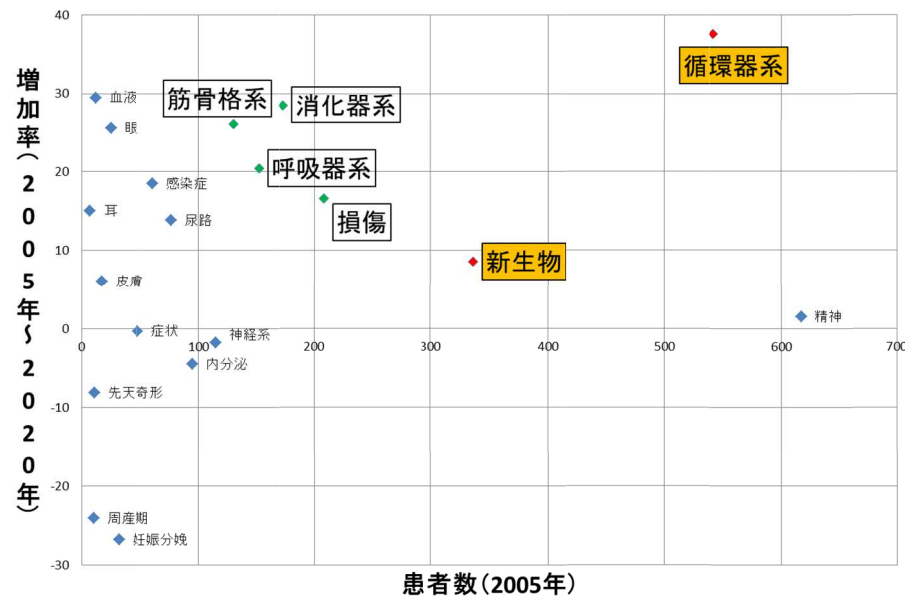


疾病別・管内

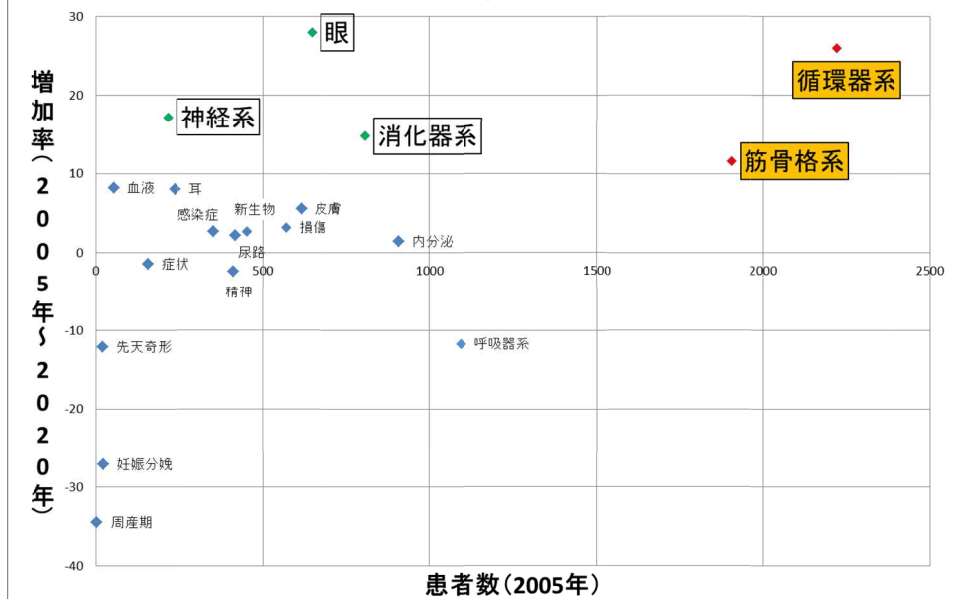
疾病19分類(ICD-10)	2005年 (平成17年)	2010年 (平成22年)	2015年 (平成27年)	2020年 (平成32年)	05-20年 増加率
1 感染症及び寄生虫症	351	360	363	361	2.7%
2 新生物	452	464	462	464	2.7%
3 血液造血器、免疫障害	53	55	57	58	8.2%
4 内分泌、栄養代謝疾患	907	919	903	920	1.4%
5 精神及び行動の障害	411	411	400	401	-2.4%
6 神経系の疾患	215	234	247	252	17.2%
7 眼及び付属器の疾患	647	733	804	828	28.0%
8 耳及び乳様突起の疾患	236	251	256	254	8.0%
9 循環器系の疾患	2,219	2,482	2,679	2,796	26.0%
10 呼吸器系の疾患	1,095	1,082	1,012	967	-11.7%
11 消化器系の疾患	807	867	909	926	14.8%
12 皮膚・皮下組織の疾患	615	645	657	649	5.6%
13 筋骨格系結合組織疾患	1,904	2,016	2,062	2,125	11.6%
14 尿路性器系の疾患	418	424	426	427	2.2%
15 妊娠、分娩・産じょく	22	20	17	16	-27.1%
16 周産期に発生した病態	3	3	3	2	-34.5%
17 先天奇形、変形	20	20	18	18	-12.1%
18 症状、徴候、異常所見	155	156	152	153	-1.4%
19 損傷・中毒、外因影響	569	585	586	587	3.2%
20 合計	11,100	11,725	12,012	12,203	9.9%



患者数vs増加率(入院)



患者数vs増加率(外来)



増加率が高い疾病は、今後徐々に患者数が増加していくものと考えられる。

患者数が多く、増加率も高い疾病は、今後さらなる増加が懸念される。

考察：高齢者の増加と共に、高齢期に受療しやすい診療科目の患者数が増える(→右向きの移動。皮膚科、内分泌、消化器、眼科など)。加えて、増加率が高い(↑上向きの移動)疾病の場合、十分な受け入れ体制の構築が必要であると考えられる。(循環器系、新生物、筋骨格系)